



真言宗宝珠山常念寺円蔵院は、寺の縁起によると貞観5（863）年、田中の里に開創、万寿元（1024）年、常観寺延命院と号す、文安3（1446）年、中興、宝珠山常念寺円蔵院と改称す。貞享元（1684）年、根岸山の膳地に寺跡を移し伽藍を建造す。とあります。

この円蔵院は教育と深いかわりがあるお寺です。

この寺の第19世住職円山琇雄は文久3（1863）年、寺子屋を開業、明治5（1872）年廃業したという記録があります。その後、「学制」により明治6年6月この寺に小学賛育館を設立し、金子、金手、神山の3村の子ども49名が入学しました。住職琇雄は、寺子屋の師匠から引き続き教師を任され、初等教育に大変尽力されました。

現在、寺に残る筆小塚は当時の寺子屋の教え子が恩師を慕って建てたもので62名の名前が記されています。

賛育館はやがて金田小学校と校名を変え独立していきます。このように円蔵院は町の教育と深い係りを持った寺です。



円山琇雄先生を偲んで建てられた筆小塚



公立学校賛育館大井小学校発祥の地の碑